

一橋大学大学院言語社会研究科韓国学研究センター 設置の目的と事業概要

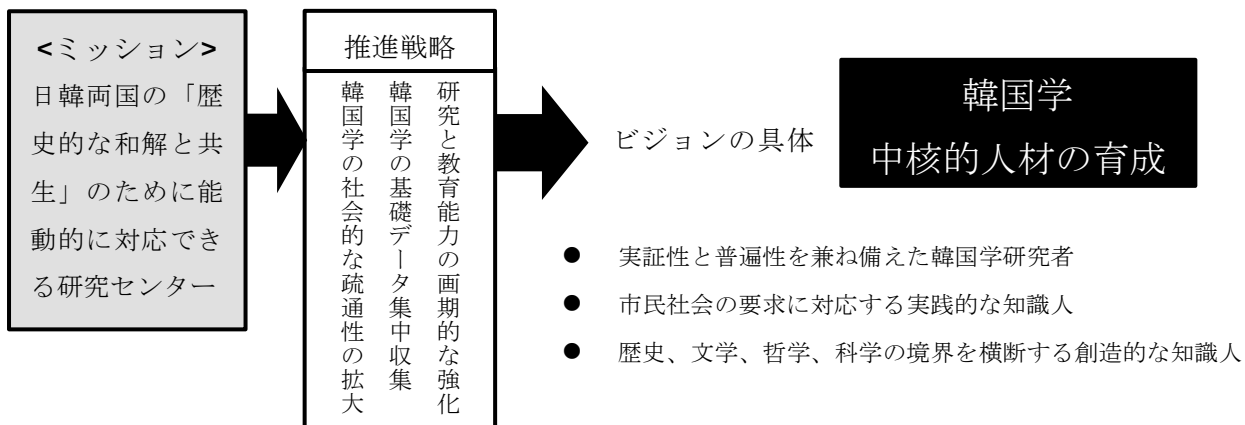
戦後、日本における朝鮮研究は、政治的諸問題の影響もあって十分に展開されてきたとは言えません。一橋大学について見ても、戦前の福田徳三(1874-1930)、韓国経済史研究の先駆者である白南雲(1894-1979)をはじめ、多くの優れた朝鮮学の研究者を輩出したにもかかわらず、朝鮮学を束ねる研究の中心は、これまで学内に存在しませんでした。言語社会研究科韓国学研究センターは、このような状況に鑑み、歴史的な研究蓄積を批判的に継承し、社会と時代の要請に対応すべき斬新な韓国学の確立を目指して、2016年12月に設置されました。

本センターは「歴史的な和解の可能性を模索する韓国学——体験・記憶・共生のスペクトラム」という主題を設定し、人文・社会学を軸にした韓国学研究を推進します。

具体的には、韓国学研究の新たな方向性とアジア共同体の未来像を展望すべく、「体験・記憶・共生」をキーワードに据え、韓国社会とアジア共同体のつながりを学際的(interdisciplinary)な手法で究明していきます。特に、歴史的にさまざまな層位が絡んでいる日本と韓国の関係網とその中の分節点に注目して、両国の相互認識の形成過程に再び光を当てることで、未来志向的なアジア共同体の知的基盤構築を目指します。さらに、アメリカなど他地域で行われる韓国学とは一線を画して、一橋大学独自の学問伝統と人的資源を結集することで、日本最高の韓国学研究・教育拠点、地域社会と連携する中心的機関としての地位の確立をも目指していきます。本センターは、韓国学の研究と教育を柱に据えた、東京の西部圏の地域ネットワークの中心と中核的資料センターとしての機能確立も目標に掲げます。

一橋大学が日本における韓国学の「新しいリーダー」としての地位を獲得、確立できるように、本センターは下図のようなミッションを設定し、基本的な推進戦略に基づき、「韓国学の中核的人材の育成」を柱に据えた、多様な研究と教育を実施していきます。

基本的なミッション、推進戦略の方針



(1) 韓国学の社会的な疏通の拡大

- 学内の韓国学に関連する研究スタッフの結集
- 韓国学の中核人材育成
- 革新的な教育研究のモデルの創出
- 東京西部圏における韓国学拠点大学

(2) 研究と教育の有機的な結合

- ポスドク支援（研究奨励費支給、共同研究、学術活動への参加機会提供）
- 大学院生（修士課程・博士課程在籍学生）に研究奨励費支給
- 新規授業（学部および大学院）開設と統合教育研究モデルの創出
- 国際シンポジウムの開催、海外学者の招聘やセミナー開催
- 論文と著書（訳書）出版
- 教材の開発-

(3) 東京西部圏の地域ネットワークの構築

- 地域の大学とのネットワーク構築
- 韓国の研究機関との協定締結
- 市民社会団体との交流
- 市民講座の開催

(4) 韓国学資料センター

- 韓国学の基礎データ集中収集
- 情報のDB化
- 韓国学デジタルライブラリの構築
- 外国の研究機関とのデータ交換

韓国学研究センターの研究と教育で予定される事業一覧

研 究	教 育
<ul style="list-style-type: none"> - 教育研究能力の画期的な強化 - 韓国学に関連する学際システムの構築 - 韓国学コミュニティの構築 - 国際学術大会の開催 - 韓国学国際研究ネットワークの構築 - 韓国学フォーラムの常設運営 - 東アジア学連携専攻の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> - 韓国学専門教育プログラムの開発 - 韓国学教育と研究のグローバル化 - 韓国学研究力量の強化 - 韓国学教育研究インフラの拡充 - 学際的な教育研究の多角化 - 国内外の専門家の連携講座 - 市民対象の韓国学プログラムの開発

研究分野で推進するテーマは、①近代日韓両国の歴史的な「体験」、②日韓の歴史をめぐる「記憶」の政治学、③「共生」のための可能性模索、という三つの領域からなります。本センターでは、従来の研究成果を批判的に継承しつつ、日韓両国が解決していくべき懸案を冷静に直視しながら、歴史的な和解と共生の可能性を模索するための学際的な（interdisciplinary）共同研究を推進していきます。これら三つのテーマの研究は、日韓の過去と現在を集中的に照射しながら、未来を眺望する形で展開されることとなりましょう。また、人文科学、社会科学、法学などを統合し、個別の研究領域を超えて学際的、脱地域的、比較的なアプローチを採ることにより、韓国学を東アジア学の中心学問のひとつとし、その地位の向上に寄与したいと考えます。上記の包括的なテーマの他に、毎年より具体的な研究テーマを設定し、センターのすべてのスタッフが研究、教育、資料収集、国際交流協力を推進、成果を収めることで、研究の発展可能性と幅広さを示していきます。2016-2017年計画第一年度の具体的な研究テーマとして、「体験」領域では「現代社会の戦争像と記録」、「記憶」領域では「戦後の日本社会の植民地の記憶と植民地責任論」、「共生」領域では「日韓両国の歴史的な

和解の可能性模索」などが設定されています。研究成果は、論文と著書、訳書、国際学術会議論文資料集、韓国学文献資料目録などの形式で公刊される予定です。これらの研究成果は、韓国学関連講義の教材としても活用され、さらに一般的に広く公開配布されることで、韓国学研究の拡大に寄与することになりましょう。国際交流協力プロジェクトは、韓国と日本の韓国学研究諸機関と団体との実際的な交流協力の実現、推進に重点を置きます。特に韓国の図書館資料や施設を十分に活用するために、韓国との継続的なパートナーシップを構築し、また研究者を随時招聘、特別講演、ワークショップの開催、大学院セミナー参加などを通じて、国際交流協力を実質化していきます。

教育分野では、従来に関連講座をより発展させる方向で推進する計画です。現在の韓国学関連講義をより多様化し、毎年二つ以上の新しい講義を主として本研究科に開設します。2016-2017年計画第一年度にあつては、研究科既存の授業科目に新規講師を充当します。このように韓国学関連講義を多様化、高度化することで、韓国学研究を志す大学院生の増加が期待されると同時に、このことを通じて日本における韓国学の基盤をさらに拡充したいと考えます。また、教育分野のプロジェクトでは、韓国から招聘する研究者が参加する形での大学院セミナー講座を毎年開設して、韓国学専攻の院生に学際的な議論に参加する機会を提供します。なお、センターでは、地域社会における韓国学への関心を拡大するために、地域市民も参加できる韓国学の講演、各種公演、展覧会なども不定期に開催する予定です。